

ISDA® JAPAN MONTHLY UPDATE

2008年7月

コミッティ活動

Risk Management: 担当森田(tmorita@isda.org)

バーゼル銀行監督委員会が、追加的リスクにかかる自己資本算出(IRC)のための指針となる市中協議文書を公表した。IRCは流動性によるリスクだけでなく、クレジットマイグレーション(リスク測定期間の終了時点を超えた後の信用リスクの遷移の可能性)のような他のリスクも考慮した、トレーディング勘定の3つ目の要素である。文書へのコメント期限は2008年10月15日。

Regulatory: 担当森田(tmorita@isda.org)

7月10日にISDAは、金融庁総務企画局市場課と、6月23日に提出されたレターにおける残存問題について話し合うためのフォローアップミーティングを行った。

7月17日、ISDAは金融庁丸山審議官とOTCデリバティブにおけるオペレーションインフラ整備の現状について再検討、議論するために会合を行った。内容は、ポートフォリオコンプレッション、CDSオークションメカニズムの定義集への組み込み、CRMPG IIIでの議論、CDSにおけるセントラルカウンターパーティーの創設など。

Weather, commodity & developing products: 担当森田(tmorita@isda.org)

排出量取引:7月17日にISDAは、流動化・証券化協議会 の排出量取引ワーキンググループの会合において、ISDA Master AgreementとEU Allowance transactionsのテンプレートについてプレゼンテーションを行った。ワーキンググループは経済産業省が主催しており、本邦 CER 市場における排出量取引の健全な発展を促進するために組織されたもの。

Equity Derivatives: 担当難波(knamba@isda.org)

7月16日、Japan Client Share/Index Option MCAのドラフトがメンバーに回覧され、最終コメントの提出が求められた。本ドラフトは、日本円以外の通貨での決済に対応するための為替に関する規定を新規追加するなど、前回のドラフトから若干のマイナーチェンジがあった。最終版は7月24日に発行された。

Operations: 担当難波(knamba@isda.org)

Japan Operations Committeeによる会合が7月15日に開催された。はじめにISDAより、ゴールドマンサックス証券の倉持氏と野村證券の臼井氏がコミッティの共同議長として選出されたことの発表があった。続いて、本邦市場におけるデリバティブオペレーションのオートメーション化をいかに促進していくかについて、議論された。主な内容は、オートメーション化によるメリットと、ローカルメンバーによる電子プラットフォームの導入を遅らせる原因となっていると思われる障害について。

コミッティ並びに作業部会会合/コンファレンスの予定

Understanding the ISDA Master Agreements Conference
(Hotel Okura)

8月1日

CDS Auction Working Group Meeting
(日本語による会合)

8月6日

Property Derivatives Documentation Task Force Meeting
(日本語による会合)

8月7日

Regulatory Committee – Chinese issues
(英語による電話会議)

8月28日